

就労継続支援 A 型事業所における地域連携活動実施状況報告書

| | |
|------|---------------------------|
| 事業所名 | 就労支援事業所ノースリーフ |
| 住所 | 北海道士別市大通西 8 丁目 2 9 4 1 番地 |
| 電話番号 | 0165-26-7886 |

| | |
|-------|------------|
| 事業所番号 | 0113200984 |
| 管理者名 | 橋本憲幸 |
| 対象年度 | 令和 4 年度 |

地域連携活動の概要

<活動内容>

活動場所：JA北はるか美深本所、音威子府支所
 アスパラ選果施設、かぼちゃ選別施設、音威子府そば乾燥調製施設
 実施期間：6月、9月～12月
 利用者人数：3名～6名
 アスパラ選果施設：カット原料計量器投入、自動結束機セット、結束原料
 そば施設：調製済原料麻袋ミシン縫い、麻袋はい積み作業
 南瓜選果施設：磨き済原料選別、製品箱はい積み

<目的>

障がいを持った方に作業を行ってもらうことで、障がい者雇用についての理解を深めてもらう。また、道北地域での農業分野における「労働力不足」は年々深刻になっており、障がい者は貴重な「人材」となってきた。農業分野の作業では、作業の「細分化」を行うことができることや、他分野の作業に比べて比較的「単純」な作業が多い為、障がいを持った方々でも作業を行いやすい。
 作業ができたことでの「達成感」を得る事、事業所外の方と関わることで「コミュニケーション力」を身に付けることができることで、作業面と社会面の能力向上が図れる。

<成果>

作業面では、障がい者それぞれの作業特性を生かした作業が行えたことで、「自信」「達成感」「充実感」を得ることが出来ていた。また、JA職員の方々にもコミュニケーションを取っていただいているので、障がい者の方たちも作業に取り組みやすい環境となっていたため、力をしっかり発揮して、作業に貢献することが出来ていた。色々な作業に関わることで、作業スキルの幅が広がることや、外部の方々と関わることで、コミュニケーションスキルの向上を図ることが出来た。
 課題面として、支援員の指導がよくないことがあり、障がい者の方が作業理解に苦しむ場面も見られ、作業が円滑に進まなく、迷惑をかける場面もあった。

<活動の様子>

アスパラ選果施設
(結束機投入作業)

南瓜選果 (はい積み)



そば施設 (はい積み)




南瓜施設 (選別)

連携先の企業等の意見または評価

青果物選果施設や農産物乾燥調製施設においては、町内の人口減少、高齢化の影響で人材の確保が難しくなっている状況のため、令和元年よりノースリーフと協議を行い、障がい者の方々を使い、人材不足の改善を目指しました。

今年度は、昨年度までの南瓜施設とそば施設の作業に加え、「アスパラ選果」の作業についても新たにお願いをしました。既存作業（南瓜施設、そば施設）については、例年通り作業をしてもらいました。そば施設、南瓜施設については、重量物を扱う作業をメインにやってもらっていますので、高齢化が進んでいるこの状況の中では貴重な人材です。また、アスパラ施設については、手先を利かせた細かい作業でしたので、作業のコツを掴むのに少し時間がかかりましたが、作業を覚えたら他のパートさんと変わらない程度の作業が出来ていました。

年々人の確保が難しくなる中、ノースリーフからの人員は貴重であり、今後についても様々な場面をお願いしていきたいと考えています。

| | | | |
|--------|--------------------|------|--|
| 連携先企業名 | JA北はるか学農販売部 農産課 係長 | 担当者名 | 高橋 太  |
|--------|--------------------|------|--|